

## 技術職員新採用として

防災研究所技術室 情報技術グループ 名田彩乃  
(令和3年4月採用)

### 自己紹介

令和3年度新採用職員として採用いただきました名田 彩乃(なだ あやの)と申します。

私は1999年に神戸市で生まれました。阪神・淡路大震災は経験していませんが、神戸市民として幼いころから地震についての教育を受けて育ってきました。その中で、建物被害などを映像で知り、防災について強い興味を抱いてきました。

中学生の頃に、母校である明石工業高等専門学校で行われた防災教育の公開講座に参加しました。その後建築学科に入学し、卒業研究では、私自身が小中学生に対し防災教育(写真1)を行いました。

卒業研究をする中で矢守先生の研究について知り、京都大学防災研究所について知りました。微かな憧れを抱きつつも、自分の専門は建築だったこともあり、防災にかかわる仕事ができるなど夢にも思いませんでした。今年度から技術職員として、懸命に業務に取り組んでいきたいと思えます。



写真1:防災教育の様子

### 研修について

4月1日から初めの3日間は、吉田キャンパスで新採用職員研修を受講しました。京都大学の歴史やマナーなど、京都大学の職員として必要な知識を得ることができました。また、キャンパスや職種は違いますが同年度採用の皆さんと仲良くなることができ、とても楽しい3日間でした。

技術室に配属されて以降は、各実験所に2週間ほど研修に行き、技術職員の業務について学んでいます。

強震応答振動装置では、企業実験の見学や機器の操作、レーザー変位計の設置等を行いました。

地震予知センターでは、プログラミングや地震計の設置、観測点のメンテナンス(写真2)を行いました。

境界層風洞実験室では、企業実験の見学や機器の操作、基盤の作成等を行っています。



写真2:観測点の様子

今後は遠心力载荷実験室、宇治川オープンラボラトリー、各遠隔地に研修に行くほか、マイコンや工作についても詳しく学んでいく予定です。たくさんを知ることができ、胸が躍る気持ちです。素早く吸収し、成長していきたいです。

### **技術職員としての将来像**

技術職員として働き始めてから、留学生とお話する機会もありました。学生時代は英語で会話することも多かったのですが、卒業後めっきり英語を話さなくなると、言葉がなかなか出てこなくなることを激しく痛感しました。コミュニケーションに必要な不可欠な英語を話す力を、しっかりと高めていきたいと思います。

各実験室の研修の際、クレーンの操縦を間近で見る機会が多くありました。実験を支援するために、さまざまな資格が必要になると思いますが、どの実験室でも用いるのがクレーンだと思います。私も早く資格を取得し、クレーンを動かせるようになりたいです。

また、教員や学生と積極的に関われるようになりたいと感じています。今後技術支援を行う上で、仕事を依頼されることを待っているだけではなく、支援できる業務について広く宣伝することが重要です。まだ少し緊張してしまうことが多いですが、自分を売り込んでいけるようリラックスして話していきたいです。

防災研究を支える仕事ができ、心から嬉しく思っています。少しでも早く一人前の技術職員となれるよう、日々精一杯努力していきたいと考えています。どうぞこれからよろしくお願いたします。